(2) 断熱性に関する項目

①断熱材の施工方法

全体では「充てん断熱工法」が65.3%を占めており、「外張断熱工法」は21.2%であった。

地域別にみると、九州で「外張断熱工法」が30.9%となっている（図33）。

外壁の構造別では、真壁構造で「外張断熱工法」が31.0%であった（図34）。

図33 断熱材の施工方法（地域別）

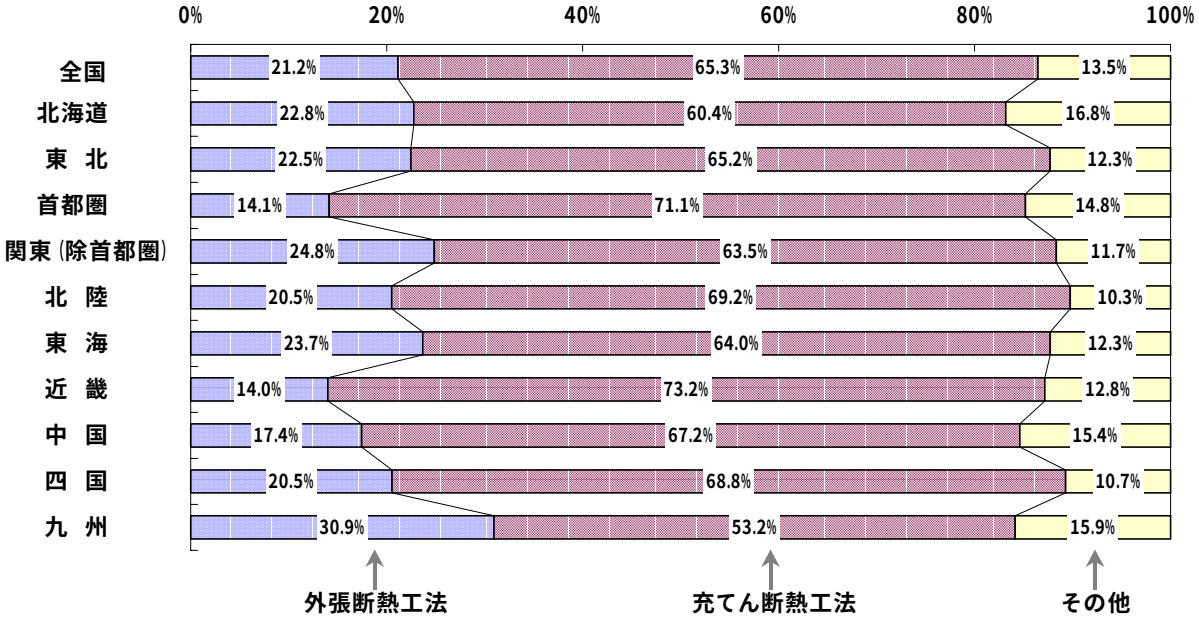
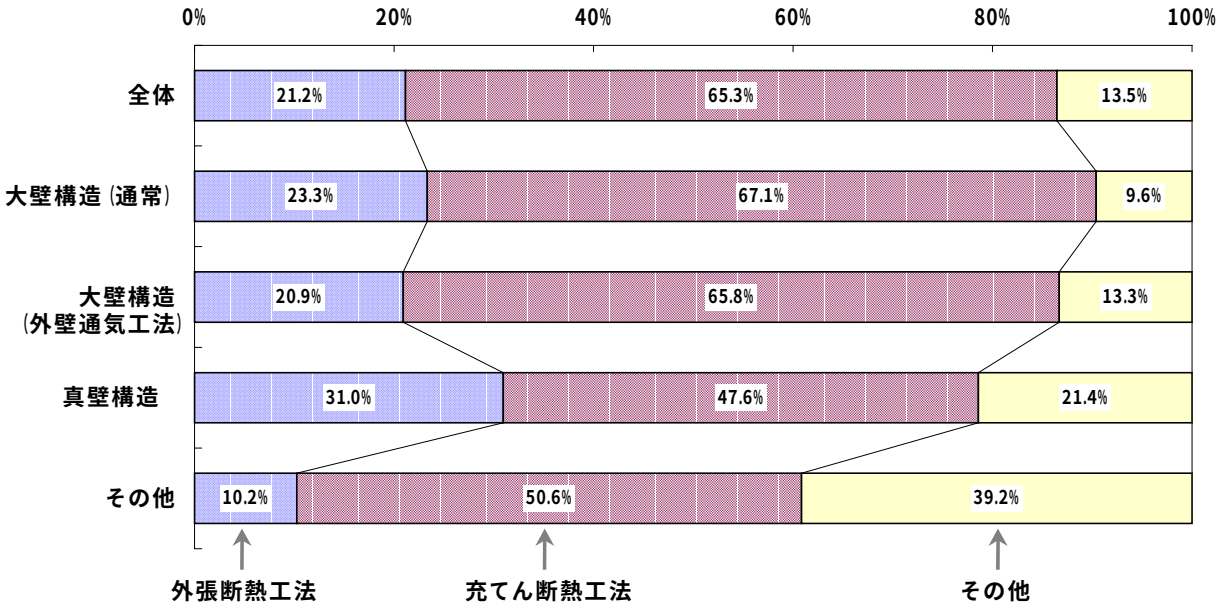


図34 断熱材の施工方法（外壁の構造別）



②窓サッシの枠

「アルミ製（又はアルミ製二重）」が71.1%のシェアを占めるものの減少傾向にある。一方、「アルミ製とプラスチック製の二重」が12.5%となり、増加傾向にある（図35）。

地域別の特徴として、北海道において「プラスチック製（又はプラスチック製二重）」が 85.3%に達している。また「アルミ製とプラスチック製の二重」が東北（30%）、関東（除首都圏）（25.2%）、北陸（22.5%）で比較的多く使用されている（図36）。

図35　窓サッシの枠

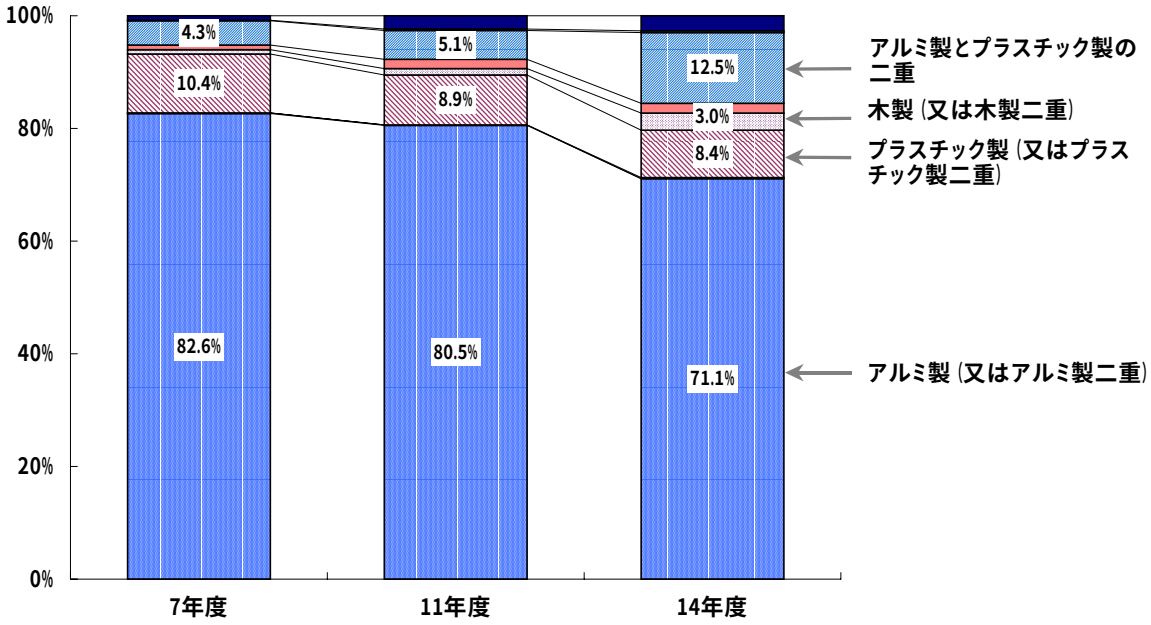
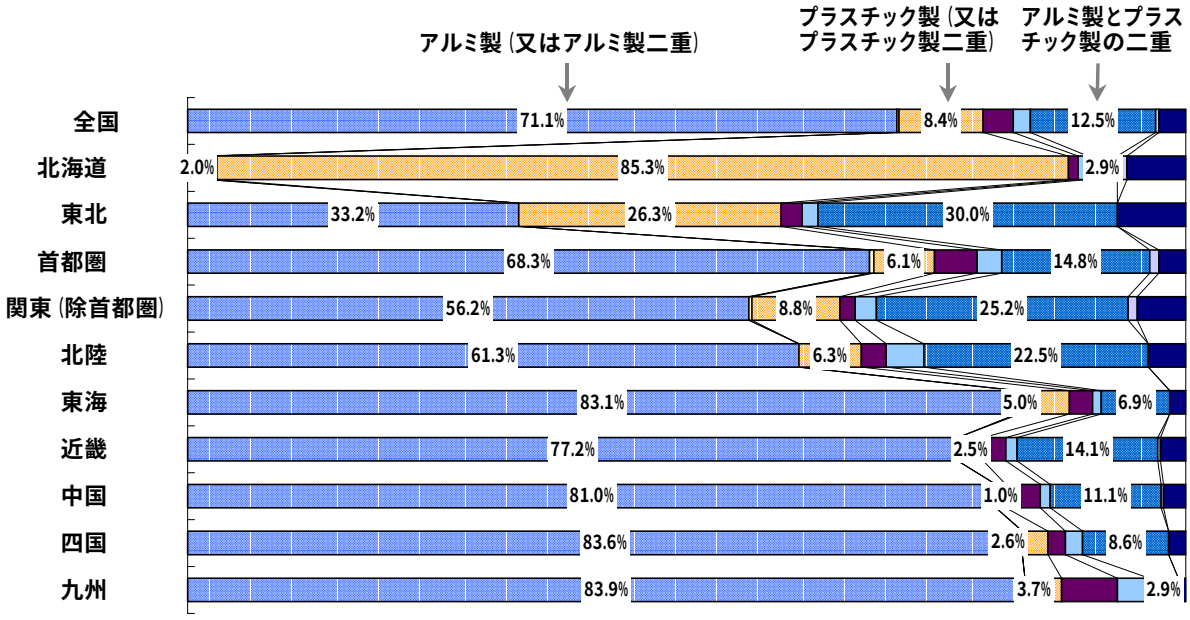


図36　窓サッシの枠（地域別）



③窓サッシのガラス

「複層ガラス」のシェアが増加して 61.2%に達している反面、「ガラス単板」は 13.1%に減少している（図 37）。

窓サッシの枠とガラスとの関連をみると、「複層ガラス（空気層　6mm　以上）」との組合せが多くなっている（表 38）。

図37　窓サッシのガラス

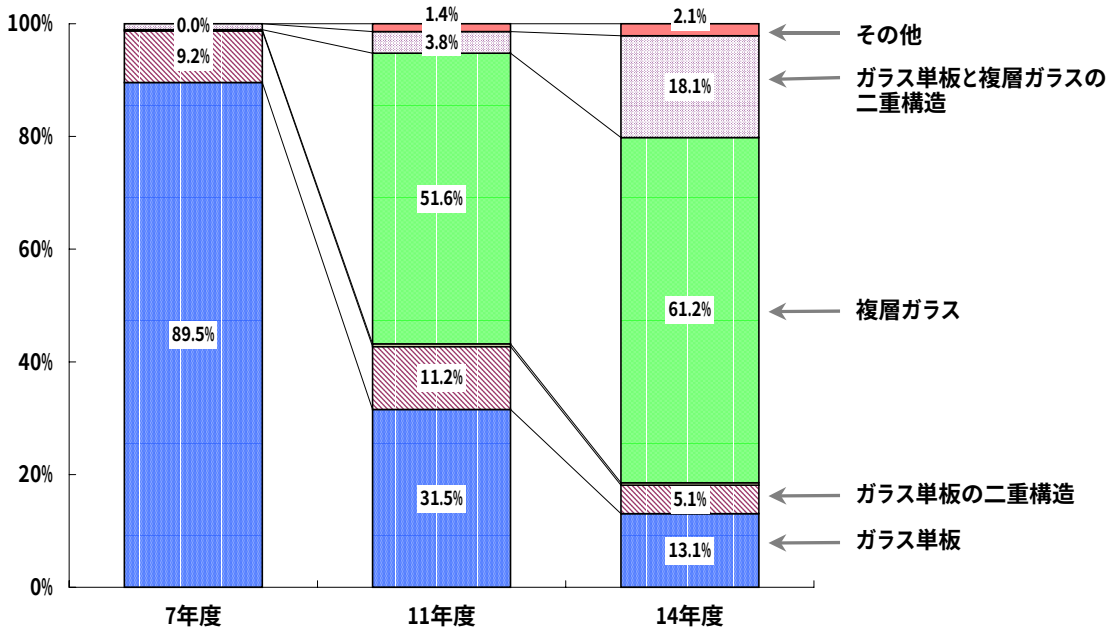


表 38　窓サッシのガラス（枠別）

	ガラス単板	ガラス単板の二重構造	ガラス単板の三重構造	複層ガラス（空気層6mm未満	複層ガラス（空気層6mm以上）	ガラス単板と複層ガラス（空気層6mm未満 の二重構造	ガラス単板と複層ガラス（空気層6～11mm）の二重構造	ガラス単板と複層ガラス（空気層12mm以上）の二重構造	ガラス単板と低放射複層ガラス（空気層12mm以上）の二重構造	その他
全体	13.1%	5.1%	0.4%	15.9%	45.3%	3.7%	3.5%	5.9%	4.9%	2.1%
アルミ製	16.6%	6.3%	0.0%	19.3%	43.1%	4.3%	3.7%	3.9%	2.1%	0.7%
鉄製（熱遮断構造）	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
プラスチック製	0.4%	0.4%	0.0%	6.3%	55.9%	1.2%	1.2%	7.0%	21.9%	5.9%
木製	25.8%	3.2%	14.0%	16.1%	21.5%	2.2%	3.2%	1.1%	2.2%	10.8%
アルミ・木製の二重	15.4%	1.9%	0.0%	15.4%	42.3%	1.9%	3.8%	11.5%	3.8%	3.8%
ｱﾙﾐ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製の二重	0.8%	3.2%	0.0%	6.6%	53.9%	2.9%	5.0%	17.1%	9.2%	1.3%
ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ・木製の二重	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	55.6%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%
その他	1.2%	0.0%	0.0%	2.5%	56.8%	1.2%	1.2%	8.6%	8.6%	19.8%

④屋根又は天井の断熱材

屋根又は天井に使用されている断熱材の材料は、「グラスウール」(58.9%)が過半を占めるものの時系列でみると減少傾向にある。グラスウール以外では「ロックウール」(21.5%)が増加している(図 39)。

工法別には、在来鉄骨造で「グラスウール」が 77.8%、在来 RC 造で「硬質ウレタンフォーム」が 72.7%、枠組壁工法で「ロックウール」が 30.9%を占めている(図 40)。

図39　断熱材の種類(屋根又は天井)

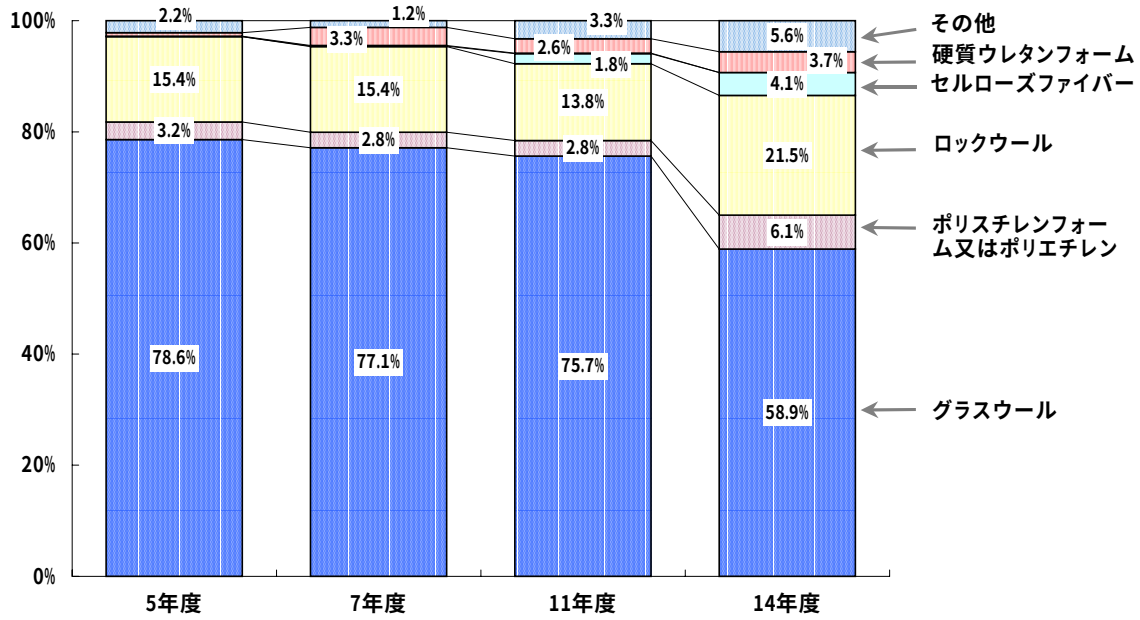
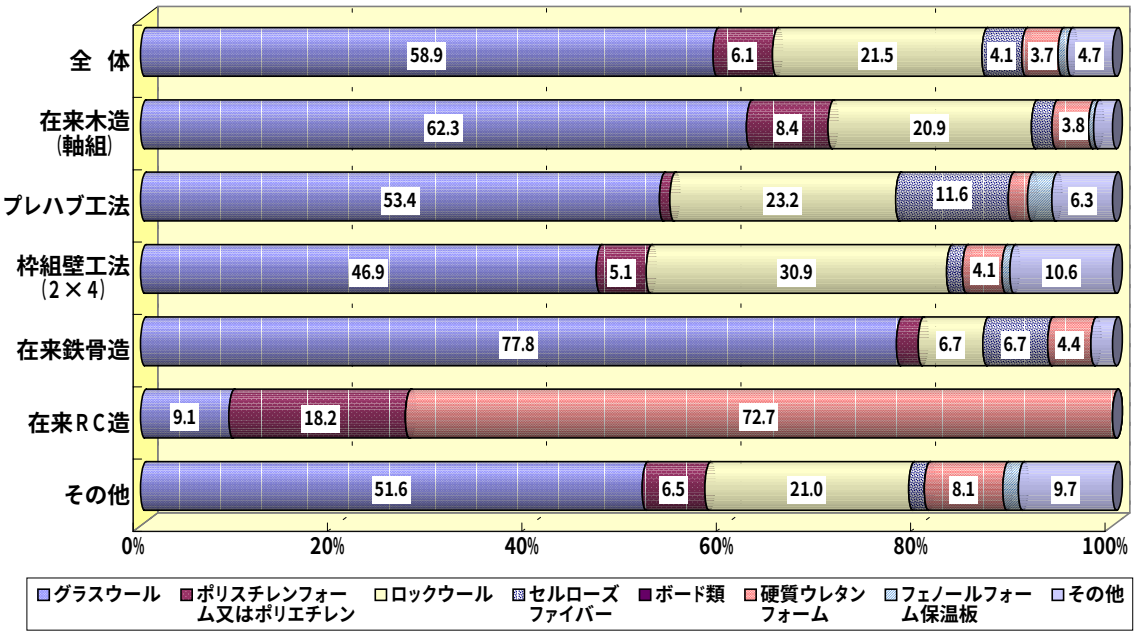


図40　屋根又は天井の断熱材(工法別)



壁に使用されている断熱材の材料は、「グラスウール」(60.5%) が過半を占めるものの減少傾向にある。反面、その他の材料の割合が増加している (図 41)。

工法別の特徴は、屋根又は天井の断熱材と相似しており、工法別には、在来鉄骨造で「グラスウール」が 75.6%、在来 RC 造で「硬質ウレタンフォーム」が 72.7%、枠組壁工法で「ロックウール」が 36.9%を占めている (図 42)。

図41 断熱材の種類 (壁)

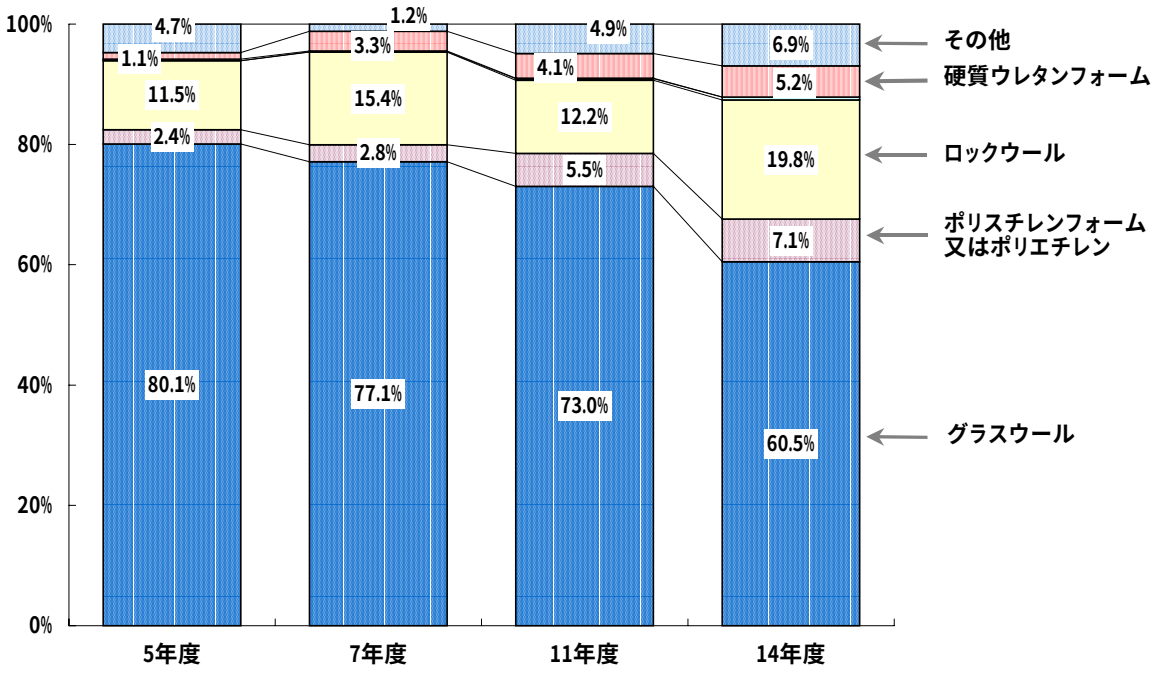
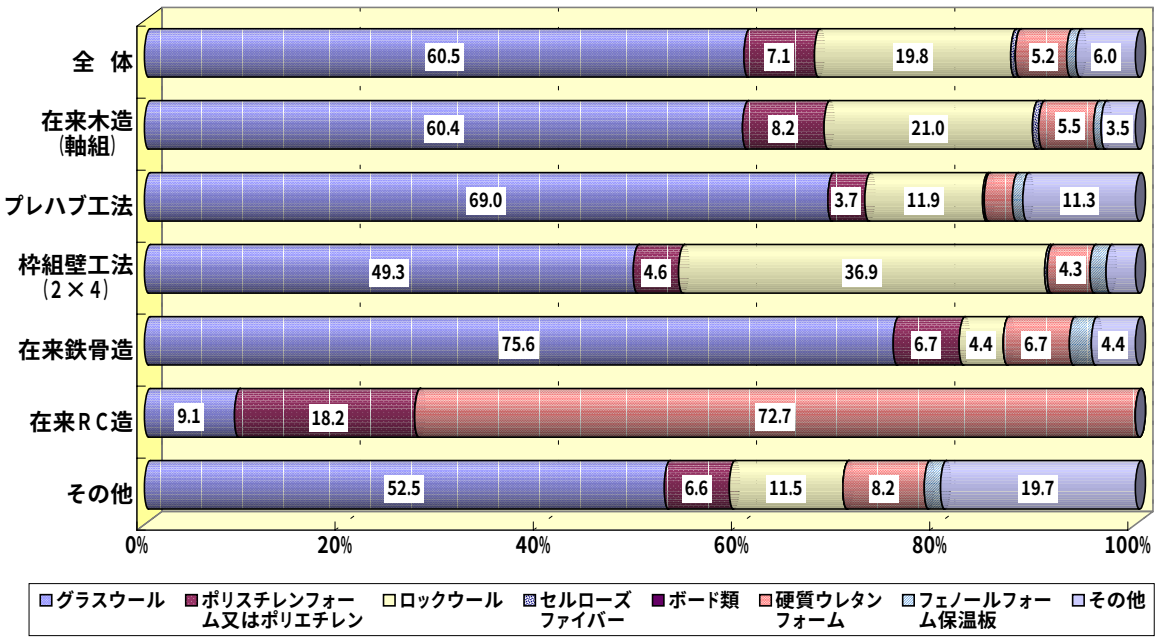


図42 壁の断熱材 (工法別)



⑥床の断熱材

床に使用されている断熱材の材料は、「ポリスチレンフォーム又はポリエチレン」（51.9%）が過半を占めており、増加傾向にある。反面「グラスウール」（24.8%）は減少傾向にある（図 43）。

工法別では、全ての工法で「ポリスチレンフォーム又はポリエチレン」の割合がその他の材料よりも多く、特に枠組壁工法、在来鉄骨造及び在来ＲＣ造では60%を超えている（図 44）。

図43　断熱材の種類（床）

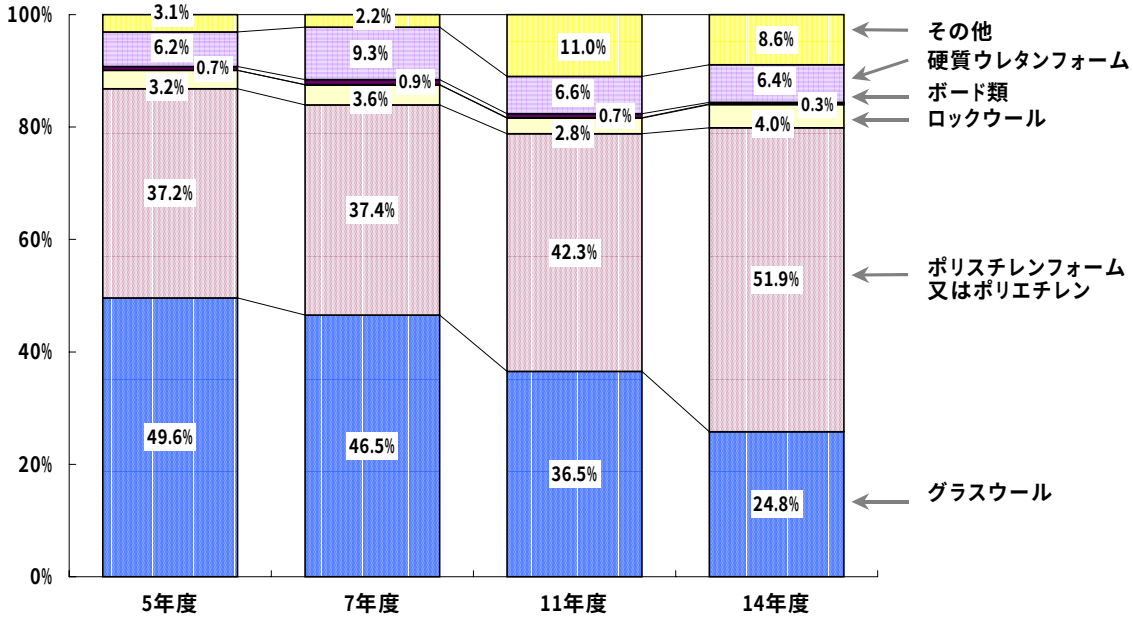
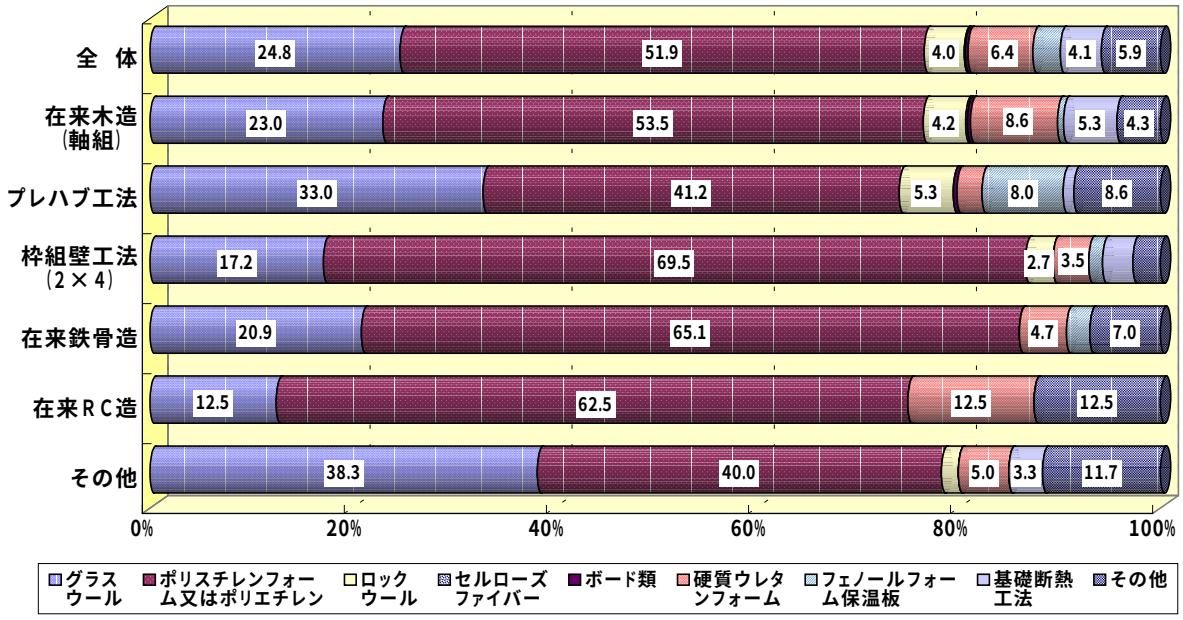


図44　床の断熱材（工法別）



⑦気密住宅

気密住宅であるか否かを時系列でみると、気密化した住宅の割合は僅かに増加して 47.5%であった（図 45）。

地域別には、北海道において気密化が非常に進んでおり、85.4%に達している。

工法別には、プレハブ工法の 86.1%が気密化しているのに対し、在来木造では 26.5%に過ぎない（図 46）。

図45 気密住宅の有無

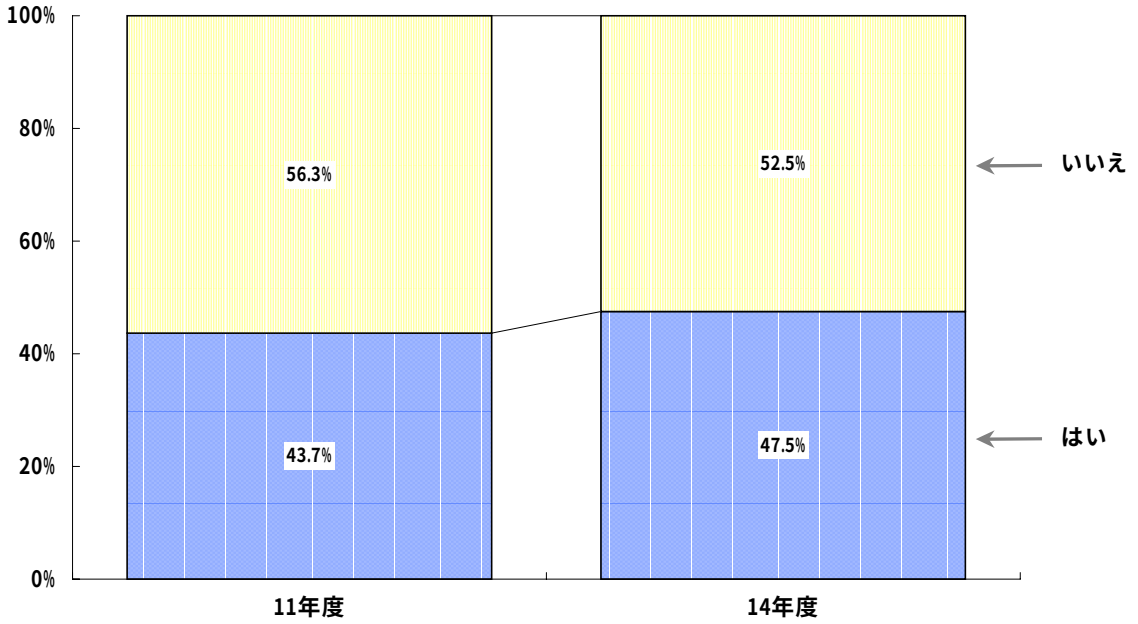
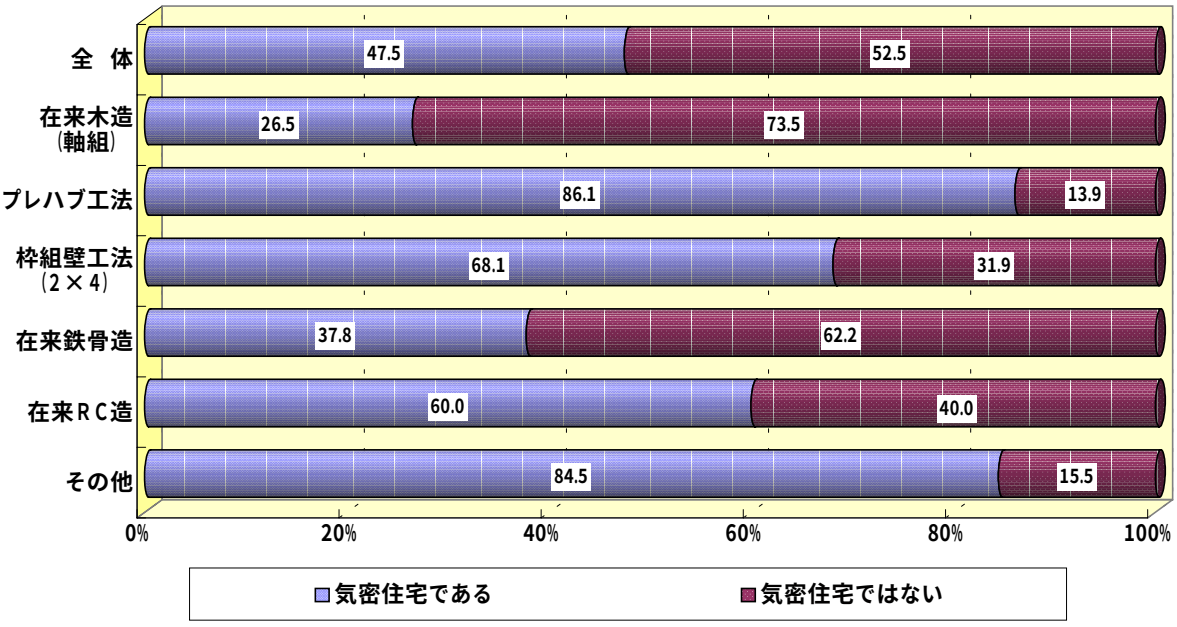



図46 気密住宅（工法別）